

〈公民〉

思考力・判断力・表現力を育む学習指導の工夫 — N I Eにおける地域学習を題材とした課題解決学習を通して—

沖縄県立那覇商業高等学校教諭 嶺 井 寿賀子

I テーマ設定の理由

平成21年告示高等学校学習指導要領の総則において、「各教科・科目等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、(中略) 生徒の言語活動を充実すること」とあり、言語活動を基盤として、思考力・判断力・表現力等を確実に育むことが重要視されている。

また、本県の「教育振興基本計画」では、「希望と活力にあふれた豊かな県づくりのため、その基盤となる人材育成を図る」という施策がある。将来のあるべき沖縄の姿を描いた基本構想「沖縄21世紀ビジョン」では、次世代を担う高校生など若手人材の育成が欠かせないとある。地元沖縄の現状や課題を意図的・計画的に指導することは、公民科の特性を十分に活かせる内容で、習得した知識を基に生徒の思考力・判断力・表現力を育んでいくことが重要であると考える。

本校は、明朗快活な生徒が多く、活気のある学校である。専門高校であるため、どの学科の生徒も各種資格検定取得に向け日々励んでいる。公民科の授業においても、分からぬところは恥ずかしがらず積極的に質問してくる生徒が多い。しかし、現代社会の様々な問題に対して自分の考えをしっかりと持ち、それを人前で論理的に発表できる生徒は少ない。これまでの実践を振り返ると、単元におけるグループ学習や発表、新聞記事を用いた課題学習、選挙時における模擬投票など、生徒の「気付き」を基に思考力・判断力・表現力を深める学習活動を常に心がけてきた。

しかし、参加・体験型学習は、本来、生徒の思考力・判断力・表現力を育むための学習活動だが、授業後のアンケートからは、「自分の意見をしっかりと持ち、発表する力がついたと思うか」という質問に、「思う」「どちらかというとそう思う」と回答した生徒は59%という結果であった。これは、参加・体験活動自体が目的となり、生徒が自ら学び、考える場が少なく、提示した学習課題の説明も不十分であったこと、そして、生徒の学習意欲を高める手立てや生徒が自分の意見をまとめるための思考力・判断力表現力を身に付けさせるための指導が十分でなかったことが考えられる。また、地域学習についてのアンケートで沖縄が大好きだと回答した多くの生徒たちが、沖縄のことについて十分理解しているわけではないことがわかった。しかし、郷土のことを学ぶ必要性は強く感じており、地元沖縄の抱えている課題や可能性を共に考え、学ばせることも公民科教師としての責務だと痛感した。

前述の課題から、本研究では、生徒の興味・関心が高い地域学習を基に、調べたり、話し合ったり、考えをまとめて発表するなど、生徒の思考力・判断力・表現力を育む学習指導の工夫を図る。その際、国内外そして地元のタイムリーな情報を得ることができ、活字離れした生徒の読解力を養うために有効な新聞を活用する。地域の動きを即時に伝える新聞記事は、地域の情報発信源であり、次世代の地域社会を担う生徒たちが地域の現状を学びながら、地域社会を支える一員であることを意識するきっかけにもなる。自分で選んだ記事を友達に伝え合う学習を通して、対話の中からそれぞれの思考を深めたり、賛否分かれれる問題の記事で討論し自分の意見を構築したり、読み取った社会問題について、今後の政策の在り方を考え、自分の意見・主張を新聞に投稿するなど、新聞から地域社会に視野を広げさせ、地域への愛着心や郷土を愛する心を育む。そして、生徒たちは、地域の情報や知識を得ると同時に情報を取捨選択しながら、コミュニケーションの基盤になる「自分は何を思い、何を伝えたいのか」に気づいたり、新たに獲得したりしながら、思考力・判断力・表現力を身につけることができると考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

「現代社会」の「とともに生きる社会をめざして」において、新聞という身近な教材を活用するN I Eによる地域学習を題材とした課題解決学習に取り組むことにより、生徒たちが地域社会とのつながりを捉え、地域社会が抱える様々な事象を深く考え、公正に判断し、表現することで、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができるであろう。

II 研究内容

1 思考力・判断力・表現力について

(1) 公民科で育成する思考力・判断力・表現力

小原友行（2009）は、社会科で育成することが必要な思考力・判断力・表現力について概念的規定を行い、問題発見力・資料活用の技能・思考力・判断力・表現力等の力を指摘している（表1）。これらの力を相互に関連させながら育むことが重要だと述べている。これは、高等学校公民科においても小・中学校社会科のねらいと共に通す部分があることに留意し、相互関連について配慮する必要がある。したがって、本研究では、社会的事象についての知識を単なる暗記で終わらせるのではなく、そこから疑問点や問題を見つけ（問題発見力）、新聞を読み比べし活用しながら（資料活用の技能）、社会的なある物事に対し、知る分かるだけでなく、他の物事とどのようなつながりを持っているのかを明確にし自分なりの考えを持つことを「思考力」、そして、そのつながりを理解した上で、それが良いのか悪いのか社会的な価値判断をし、解決していくことができる力を「判断力」とし、自分の考えを表現（発信）しながら社会への参加・参画できる力を「表現力」と定義づける。

(2) 思考力・判断力・表現力を育むためには

思考力・判断力・表現力を育むためには、各教科を貫く言語活動の充実が重要になってくる。「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」（2012）では、思考力・判断力・表現力を育むために具体的に6つの学習活動を示し、「各教科・領域等において発達の段階に応じて行うことが不可欠である。」と述べている。本研究での取り組みと対応させると（表2）、生徒の思考力・判断力・表現力を育むためには、単に社会的事象に関する基礎的・基本的な内容を覚えさせるのではなく、資料の読み取り、自分なりの解釈、言葉での説明、自分の考えを論述する等、言語活動を積極的に取り入れた授業が重要である。地域社会の様々な事象を知り、自分との関わりを認識しながら問題を発見し解決していく課題解決学習を展開することにより、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができると考える。

2 NIEにおける地域学習を題材とした課題解決学習について

(1) 公民科における地域学習の取組

小貫仁（2012）は、「現代社会が抱える問題の様相は、私たちの足元である地域に数多く見てとれる」と述べ、地域学習の重要性を指摘している。地域学習は、自分たちの暮らす身近な地域だからこそ、問題意識を持って、主体的に学び、地域社会を通して社会全体の構造を捉える事ができる。

沖縄は、独自の歴史と文化をもつ地域である。本研究では、沖縄の歴史や自然、文化等、様々な分野について理解するだけではなく、地域社会と自分自身に関わる事柄に対する関心を高め、地域が抱える問題から課題を見つけ、追究していく。そして、次世代の地域社会を担う者としての自覚を持ち、未来の沖縄のあって欲しい姿と主体的に生きる自分自身の姿を重ね合わせ、地域のこと、そこに生きる自分自身のことを真剣に考え、行動できる人になれるよう、公民的視野に立った地域学習を行う。自分の生まれ育った地域を理解し、地域の一員としての自覚のもと深い愛情を持つ

表1 社会科における思考力・判断力・表現力の概念

問題発見力	具体的な活動や体験を通して取り上げられた教材に働きかけることによって「社会を知る」「社会がわかる」「社会に生きる」ための問題を発見することができる力
資料活用の技能	「社会を知る」ための問題「どのようにどうなう」を解決していく事ができる力
思考力	「社会がわかる」ための問題「なぜ、どうして」を解決していくことができる力
判断力	「社会に生きる」ための問題「どうしたらよいか、どの解決策が望ましいのか」を解決していくことができる力
表現力	解決した情報を発信することができる力

表2 思考力・判断力・表現力を育成する学習活動と実践例

学習活動	主な実践例
① 体験から感じ取った事を表現する	新聞を読み、興味・関心のある記事を選び、記事の要約やコメントを書く
② 事実を正確に理解し伝達する	地域社会の現状について理解を深め、新聞を5W1Hの要領で友達に分かりやすく記事を紹介する
③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする	地域社会の現状について様々な思考を働かせながら概念を持ち、自分の考えをつくりあげる
④ 情報を分析・評価し論述する	新聞記事の内容をうのみにせず批判的に読み解き自分の考えを持つ
⑤ 課題について構想を立て実践し、評価・改善する	地域社会の課題を発見し、追究するための学習計画を立て解決策を考える
⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる	個人からペア、グループ、全体での討論活動を通して自分の考えを再構築し、新聞社へ投稿する（社会提案・社会参画）

て、地域の課題に対して解決に向け考える過程を通して、思考力・判断力・表現力を育むことができる」と考える。

(2) NIEにおける授業実践とは

NIE (Newspaper in Education) とは、新聞を教材にして、生徒の発達の段階や習熟度を踏まえて一定の能力を育成しようとする、意図的・計画的な教育活動のことである。ここで示されている一定の能力とは、「読み解き力」「問題発見力」「探求力」「情報活用力」「問題解決力」「情報を批判的に見る力」「意思決定力」「価値判断力」「社会提案力」「社会参画力」などで、これらの能力は、現在と未来を生きる生徒にとって、主体的に生きていくために不可欠な能力である。NIEは、新聞の一覧性・記録性・双方向性などの特性を活用して「今」を取り入れる教育であり、生徒に社会的課題や問題を読み解き議論し、考えるという学びを求めている。本研究では、生徒の思考力・判断力・表現力を育成するための手法の一つとして、記事の細やかな読み解きを前提とし、読み手へのメッセージ性を持たせることで思考力や判断力のみならず、読み解き力・表現力などの言語能力の育成にもつながる『切り抜き新聞づくり』に取り組む。

(3) NIEにおける地域学習とは

本研究では、「沖縄の現状を知り、課題を見つけ、解決策を考えよう」という主題を設定し、次の3つの主旨のもと、『切り抜き新聞づくり』(表3)に取り組ませる。一つ目は、新聞を活用する事で地域社会の幅広い分野の流れをつかみやすく、記事を振り返ることで変化の様相、傾向性を読み解くことができるということ。例えば、特定の出来事を深く掘り下げて追究したり、様々な出来事から共通点や相違点等を見つけたりすることで、地域の現状を読み解くことができる。二つ目に、『切り抜き新聞づくり』を通して自分の考えをつくりあげていくということ。地域の現状を新聞やその他の情報から多面的・多角的に捉えることで自分なりの考え方を持つことができる。三つ目は、生徒相互の対話を生み出し、意見を引き出すコミュニケーションのツールとして新聞を活用することである。沖縄の様々な事象を学ぶ過程の中で、「地域社会と自分との関わり」という視点を常に持ち、記事に対する意見・感想の記述・表明をくり返す。地域のリアリティあふれる情報や知識を得ることができる新聞を活用することで、情報を取捨選択しながらコミュニケーションの基盤になる「自分はこう思う、それをどう伝えればいいか」という意識喚起につながる。このように、新聞を活用して沖縄の課題を話し合い、沖縄21世紀ビジョンの掲げる「よりよい地域社会」をつくるために、未来に生きる世代がどのように考え方行動すれば地域が抱える様々な課題を少しでも解決していくのかを意識させる。地域社会が抱える様々な事象に关心を持ち、多様な角度から深く考え、客観的かつ公正なものの見方や考え方をし、地域社会での自分のあり方生き方について考察し、自分の考えを論述する言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を養うことができると考える。

3 課題解決学習について

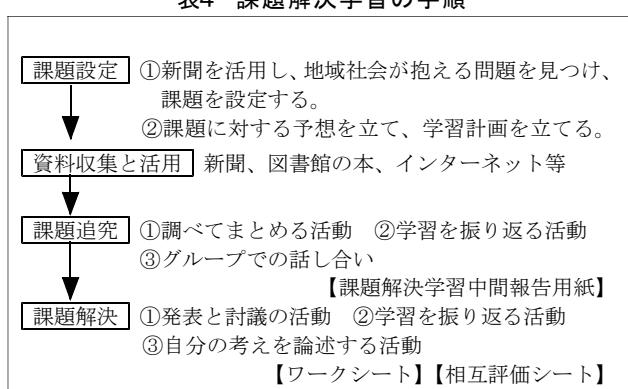
(1) 公民科における課題解決学習とは

課題解決学習とは、知識の体系を重視しながら問題解決学習の方法を取り入れた学習形態であり、教師が提起した特定の課題を様々な角度から追究したり、問題解決の遂行、創造活動などを行う学習である。課題を解決する学習については、一般にまず、課題の設定、次に資料の収集と活用、そして課題の追究、最後に課題解決といった手順が考えられる(表4)。本研究

表3 『切り抜き新聞づくり』の手順とポイント

① タイトルを明確に! ○ズバリ、内容が一目で分かる言葉で、横断紙の目立つ位置に書こう。 ○新聞の見出しの書き方を参考にしよう。 いくつかの記事を分類し、小見出しをつけるのも良い。
② レイアウトを工夫しよう! ○実際の新聞を参考に、一番伝えたいトップ記事を右肩に配置し、伝えたい内容に合わせて全体のバランスを考えてから記事を貼る。 ○記事を生かすような装飾を考えて作品に変化をつけると良い。 ○記事を数枚重ねて貼るなど立体的構成にしてはいけない。
③ 記事の要約、コメント(意見・感想)等を添えよう! ○必要な記事には、5W1Hの要領で要約を添え、特に読んでもらいたい部分にはアンダーライン等を入れ、趣旨を組み取ってもらいやすくすること。 ○コメントは単なる感想ではなく、問題提起や伝えたい内容を意識して書く事。
④ グループで課題を見つけ、解決策を考え、まとめよう! ○グループで話し合い、見つけた課題について追究し、解決策を考え、グループ全体のまとめの意見や感想として紙面上(左下)に添える。

表4 課題解決学習の手順



では、これまで「現代社会」という科目で学んできた様々な分野を活用しながら「未来社会」に向けて考え方判断し、行動していくための取り組みとして、地域学習を題材とした課題解決学習を行う。沖縄の課題を新聞等から読み取り、グループでの話し合いを通して多面的・多角的に解釈し、友達に説明し、自分なりの考えを論述するという4つの視点から捉えた課題解決学習に取り組むことで、言語活動の充実が図られ、思考力・判断力・表現力の育成につながると考える。

(2) 地域を題材とした課題解決学習の取組

本研究では、「沖縄の現状を知り、課題を見つけ、解決策を考えよう」という主題を設定する。新聞を活用しながら地域社会の現状を把握し、そこから見えてきた課題を自ら設定・追究・解決していく学習を行う。沖縄の現状を確認した後に、その事象に対する疑問から、原因、理由、意義などを問う学習課題を自ら設定し、課題解決に向けて資料を収集、活用しながら、社会的事象間の関係を捉えさせる等、課題追究を行う。そして最後に、課題に対する解決策を発表させる。

このように、課題の設定を生徒自身と地域社会との関わりに重点を置き、地域で安心して豊かに暮らせるには何が必要かなど、課題解決に向けて主体的に追究、解決していく中で、思考力・判断力・表現力を身につけさせることができるであろうと考える。

III 指導の実際

1 単元名 「ともに生きる社会をめざして」

2 単元の目標

この単元は、既習事項のまとめとして、授業や普段の生活の中から自ら問題を発見し、課題を設定し考え、そして解決していくことをねらいとしている。本単元では、「沖縄の現状を知り、課題を見つけ、解決策を考えよう」という主題を設定し、新聞を活用しながら様々な角度から考察させ、課題を発見し、それを追究、解決していく学習を通し、生徒の思考力・判断力・表現力を身につけさせる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
○現在の地域社会に関する事柄に対する関心を高め意欲的に課題を追究しようとしている。	○地域社会に関する事柄から課題を見出しその本質や自分との関わりについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ○新聞記事を読んで、その記事の主旨を読み取ることができる。また、その記事から自分の意見を明確に表現することができる。 ○友達の意見を通して、自分の考えを再構築することができる。	○新聞から有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。 ○収集した資料から、自分の意見感想を友達に伝えることができる。	○現在の地域社会の基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ○地域社会に生きる人間としての在り方生き方に関わる諸課題を自己との関わりにつなげて理解している。
○地域社会の問題と自己との関連性について意欲を持って追究しようとしている。	○現在の沖縄の課題を見つけ、主体的にその課題に自己の知識を生かそうとしている。		
○自己と友達との意見交換に積極的である			

4 単元の指導と評価の計画（全8時間）

時	学習項目・内容	学習活動	評価
1	『課題設定・探究の手引き』 ○学習方法と学習内容を知る。 ○新聞の特性を学び、新聞の読み比べを行い違いを知る。 ○記事の内容について深く考察し自分との関わり、社会への影響等を考える。友達の意見を聞きながら自分の考えをまとめる。	○オリエンテーション（単元のガイダンス等） ○新聞の特性や活用方法を学ぶ。 ○テーマ（分野）別にグループ決め ○沖縄に関する記事の中から興味・関心のある事を選び、記事の紹介文と自分の意見・感想を付箋紙等に記入する。 ○グループで『切り抜き新聞づくり』開始 ○まずはタイトルを決める。	【知・理】現代の地域社会の基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 【関・意・態】地域社会に関する事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究しようとしている。
2 ・ 3 ・ 4	『課題設定・追究への取り組み』 ○現在の沖縄が抱えている課題を見つけ、その解決に向けてグループ全員で話し合い、考えを深め追究していく。	○グループで話し合い、切り抜き新聞のタイトルを決めた後、記事の内容について不明な点や疑問に思うこと等を付箋紙に書きあげていく。 ○グループで話し合い、課題を見つける。	【思・判・表】地域社会の諸問題を多面的多角的に考察し、その内容を友達へ伝えることによって的確に表現することができる。 【関・意・態】地域社会の諸問題について、グループ内討論など様々な方法を活用して探究しようとしている。
5	『課題追究・解決への取り組み』 ○学習計画を立て調べる。 ○グループで話し合い、課題に対する解決策を考える。	○地域の諸課題について、分担して調べる。 ○調べた事を基にグループで話し合いを深める。 ○課題学習中間報告用紙に学習過程を記入する。	【関・意・態】それぞれが選択した課題について継続して追究しようとしている。 【技】地域社会の諸課題についてその資料を収集選択し的確に分析することができる。
6	『課題解決』 『グループによる発表』	○グループによる発表 ○沖縄の現状と課題、解決策を発表	【思・判・表】地域社会に生きる自分たちの課題について、自分なりの考えを持ち、

5 本時の指導（8 / 8 時間）

- (1) 主題名 「沖縄の現状を知り、課題を見つけ、解決策を考えよう」
- (2) 本時の目標
 - ① 沖縄の現状を把握し、様々な諸課題について理解を深めさせる。
 - ② 課題に対する解決策を理解し、共に考えさせる。
 - ③ 地域社会の一員としてよりよい社会の形成に自らどう参画していくか共に考えさせる。
- (3) 本時の展開

指導内容	学習内容及び生徒の学習活動	○指導上の留意事項、【観点別評価】
【導入】 5分 ○前回の発表内容を振り返り、本時の流れを説明する。	1 前回発表グループの内容を振り返り、沖縄の現状や課題について再確認する。 2 本時の流れを確認しながら、発表グループの内容や課題についてある程度予想を立てる。	○できるだけ生徒が主体的に説明できるように指名する。 ○本時の内容の趣旨を明確にする。 【関・意・態】発言・行動・観察
【展開】 40分 ○他グループの発表を通して、各分野の現状や課題、解決策等を共に考えさせる。	1 友達の発表を通して、地域社会の現状と様々な課題について理解を深める。 相互評価シート（グループ用）、発表を聞いての意見・感想用紙（個人用ワークシート）に記入する。 2 ①生活・観光班②商業・経済班③医療・福祉班④普天間基地班の4つの班による発表を聞いて、自分なりの考えを持つ。 	【思・判・表】各グループの課題学習ワークシート、行動観察、発表 【関・意・態】発言・行動・観察 ○自分の意見を述べること、友達の意見を聞くことで考えを深めていくことが重要であることを全員で再確認する。 私たちグループは、沖縄の福祉問題について学習し、そこから3つの課題を見つけました！それは
○発表後のグループトークングで考えを深めさせる。	3 グループトーキング（意見交換）を行い、自分の考えを再構築する。 4 相互評価シートとワークシートにメモを取る。	
【まとめ】 5分 ○これまでの学習を振り返る。 ○全体のまとめ	○「沖縄の現状を知り、課題を見つけ、解決策を考えよう」という主題に基づき、地域社会との自分との関わり、地域社会の一員として自分に何ができるのか等、自分の考えをつくりあげる。 ○地域を知ることが社会全体を捉え、世界に視野を広げていくきっかけになることを自覚する。	【思・判・表】地域社会に生きる自分たちの課題を指摘でき、解決するための見通しを持ち、その方法を考えている。 【関・意・態】様々な課題の中で、自己との関わりに注目して、主体的に追究しようとしている。

6 仮説の検証

本研究では、生徒の思考力・判断力・表現力を育むため、主題を「沖縄の現状を知り、課題を見つけ、解決策を考えよう」と設定し、NIEと課題解決的な地域学習を取り入れた学習指導の工夫を行った。以下、課題解決学習ワークシートや相互評価シート、課題解決学習中間報告用紙、事前事後のアンケートや感想用紙、授業で作成した切り抜き新聞、発表内容、行動観察を基に仮説の検証を行う。

(1) NIEにおける『切り抜き新聞づくり』

① タイトル決めにおける生徒の変容

まずはグループで記事の内容を読み解き、読み手に伝えたい内容を明確にし、それを具体化したメッセージ性のあるタイトルを決め、報告させた。記事とタイトルとの整合性や具体性を常に確認しながら、ただ漠然と記事を選び集めるだけのグループや記事の内容を理解していないままタイトルを決めようとしているグループには、記事をとことん読み解き、その内容を理解できていることが大前提で、自分たちの考えを基に読み手に何を伝えたいのかを考えながらタイトルを設定することが大事だと全員で何度も確認した。記事を分類・整理し、タイトルをつけるという活動は、思考力のみならず表現力も育む重要な活動である。例えば、「観光を通して沖縄を守る」というタイトルをつけた生活観光班は「初めは観光による経済発展という漠然としたタイトルだったけど記事の内容を深く掘り下げて皆で話し合った結果、沖縄独自の魅力で沖縄の未来を守れ

るといいねという結論になった」と表現しており、医療福祉班は「障害者から障がい者へ」という言葉の変容に着目し、その意味について大きなメッセージ性を持たせている(表5)。

このように、タイトルをつけるという活動を通して、記事の内容の共通性や方向性、相違点などを整理することができ、漠然とした思考から「自分たちが何を思い、どう伝えたいのか」という具体的な思考が深まり、表現力の育成にもつながったと考える。

表5 生徒自ら設定したタイトル名

環境班	「守れるか自然」
教育班	「俺たちの問題」
伝統文化班	「伝統文化を大切に守る」
基地班①	「判断大詰め辺野古問題」
基地班②	「キチ・ガイ（基地外）」
国際理解班	「世界とつながる沖縄」
医療・福祉班	「障害者から障がい者へ」
商業・経済班	「商業発展、沖縄は心臓」
特秘保法班	「多角的に見た秘密法案」
生活・観光班	「観光を通して沖縄を守る」

② レイアウトやコメントを添える活動についての考察

タイトル決定後は、記事選びを行い、レイアウトに入った。レイアウトは、読み手を意識した無駄のないまとめ方をし、その構成に意味を持たせるよう指示した。さらに、重複する内容や伝えたいことと直接関係がない部分は削るなど記事の再構成をかけさせた。また、装飾的な作業に時間をかけすぎるグループには、記事の分量や内容、配置に意識が及ぶよう指導を行った。しかし、伝えたい内容に合わせた全体のバランス等うまく構成できず悩んでいるグループには、お手本として、具体案を持っているグループにその構想など現状報告を行わせた。これにより、記事から読み取れる沖縄の現状、そして対策、自分たちの意見、当事者の声等、記事がわかりやすく分類されており、生徒たちからは「とても参考になった」「方向性が見えてきた」「見通しが持てた」との声が多く効果的であったと考える。

レイアウトと同時進行で、記事の要約やコメントを添える活動が行われたが、レイアウトの完成を急ぐあまりコメントを簡略しすぎて単なる感

想で終わらせてしまっているグループがあり、タイトル決めと同様あせらずじっくり紙面を読み解き、グループで意見交換を行うよう指導した。そういうことで、自ら問題提起や読み手に伝えたい内容を表現するようになったり（写真1）、見つけた課題と展望を述べたり（写真2）、課題と解決策を論述するようになった（写真3）。また、

特定秘密保護法の記事を担当したAさんは「きちんと理解できていなかった今話題の出来事を深く掘り下げて追究していくうちに自分の考えを持つことができた」と喜び、普天間基地移設問題を担当したグループは、

「メンバー全員がただ漠然と反対という意思を持っていたが、記事以外の情報を収集しているうちに自分達の考えが揺らいできた」「移設賛成派の人々の意見や公約を破った県代表議員の心情等、いろいろな視点からこの問題を捉え、メディアに流されていた自分達の考え方を見直した」と述

このように、グループでの議論を深め主体的に学習していく中で客観的なものの見方や考え方ができるようになったと考える。アンケートの結果においても「学習したことの根拠に自分の考えを持つことができるか」という問いに、「できる」と回答した生徒が検証前は33%に対して検証後は56%に増加している（図1）。

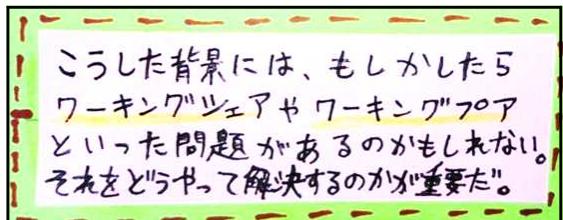


写真1 記事についてのコメントを付箋紙に記入①

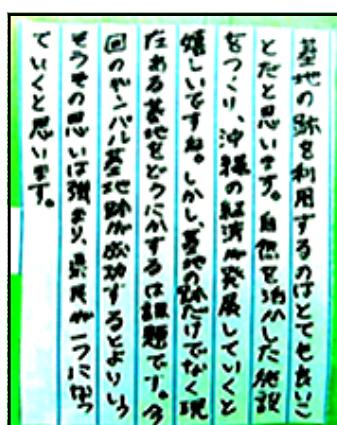


写真2 付箋紙のコメント②

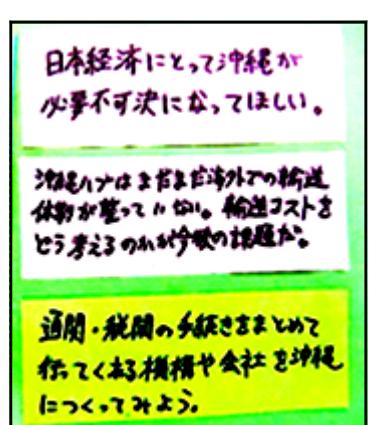


写真3 付箋紙のコムト②

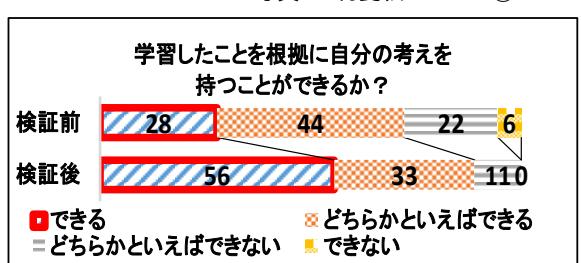


図1 思考力育成に関するアンケート①

以上のことから、当初は感情的な思考・表現が多く見られた生徒たちが、読み手を意識したレイアウトやコメントを添える活動等を通して、具体的な考え方や意見を持つようになり、思考力・判断力が育成されたと言える。

③ 思いや考えを交流させ表現する活動についての考察

新聞づくりの過程の中で、グループ内で自分が担当した記事については必ず記事の紹介とそれについて自分はどう思ったかをメンバーに伝えさせた。そして最後に、新聞をつくる過程でこれまでに理解してきたことを整理し、獲得した知識を改めてまとめ、自分たちなりに行っててきた課題解決に向けての追究過程を発表という形で再現した。発表方法は、あらかじめ各グループにレジュメシート（写真4）を提示し、発表後の相互評価が行いやすいよう共通項目を設けた。

聞き手側には、『グループの発表を聞いて』というワークシートを配布した。これは、各グループの発表内容について改めて自分の考えをつくりあげるもので、具体的な思考や課題解決策に対しての自分なりの価値判断を行うのに効果的である（写真5）。また、発表後は、5分程度グループトーキングと称して発表を終えたグループについて内容を評価しグループで付箋紙にまとめ相互評価シートに貼付させた（写真6）。記事の内容は十分伝わったか、切り抜き新聞に工夫は見られたか、発表の流れは良かったかという3つの観点を設けたもので、各グループとも後日、自分たちの作品と共に掲示された相互評価シートを確認し、最終締切日までに改善できそうな点は手直しをさせた。さらに、授業参観時や昼食時、放課後等を利用して先生方にも評価してもらった。

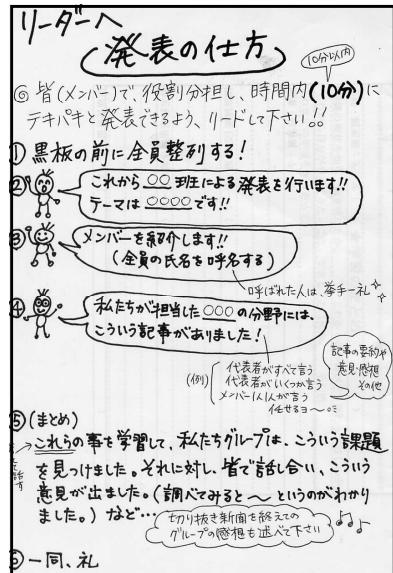


写真4 発表用レジュメシート

めあて	
①(発表する時)	状況の現状と課題について、グループテーマを通して伝えよう。
②(発表を聞く時)	状況の現状と課題、その解決策について理解し、自分の意見をまとめる。
☆グループの発表を聞いて	
・初めて知ったこと、共感できること等(意見・感想)	
環境班: テーマ(常れるか自然)	盆地東つくよしことが環境政策の原点となるにちがひぬうず、何をつくり残せようか。環境政策ペアメリットは、メリットは何か 20~30年後の問題や未だにについて考えていて良かった。
普天間基地班: テーマ(普天間基地の記録と基地問題)	メリット、デメリット双方あるから頭なりに「反対！」と声を大にすることは無い。
記録本開拓に住んでいる人はどう思つたか？	

写真5 『グループの発表を聞いて』のワークシート

切 新 品 大 れ た か ?	り 聞 こ に み 工 ら ?	白 作 工 ?	タイトルに新聞記事を が面白いと感じた。シミ を図うなど工夫がさ ーつけ、見出しも入しました。 かたです。矢印で示 せています。
発 れ つ た か ?	表 の の か ?	ある程度大きくなれて、丁寧に 私たちに、よくに書いてある 字でありますか? と言わねば、どの 字が正確かと比べる。 洋行開拓が大きくなる いて、まるで聞いてて「門が 入ってきやす」感じ。	

写真6 相互評価シート

表現に関しては、「聞き手に伝えるために知識を深めようという気持ちが大きくなっていった」「発表は苦手だが知らない事がわかった時初めて伝えたいという気持ちが沸いてきた」等、87%の生徒が「自分自身の変化の大きさを実感できた」という内容の感想を述べている。また、「新聞づくりを通して収集した情報をまとめられる力がついた」「グループでの話し合いの際に、限られた時間の中で付箋紙を使って相互評価を行うことで自分たちの意見を要領良く手短にまとめる力がついたと思う」「基地問題についてなぜ反対なのか理由を論理的に言えるようになった」「自分の考えに自信がなかったが友達に共感してもらえて自信を持って発表できた」という自信につながったと思われる感想は91%を占めている。アンケートの結果においても、「自分の考えを言葉にして相手に伝える事ができるか」という質問に、「できる」と回答した生徒が検証前は3%と検証後は実に47ポイント増加している（図2）。

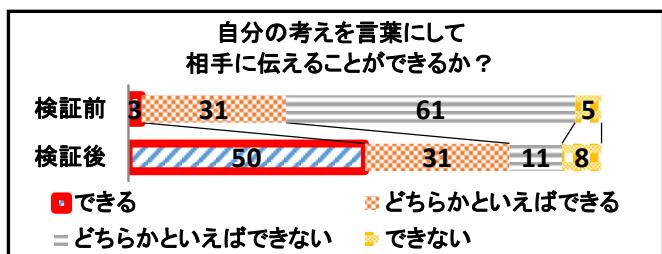


図2 表現力育成に関するアンケート

このように、NIEにおける『切り抜き新聞づくり』を通して、沖縄の現状を理解するだけでなく、学んだことを根拠にグループで何度も話し合うことで漠然としていた自分の考えが深められ、発表の場で堂々と論述できる等、論理的な思考ができるようになった。また、新聞記事の内容を多面的・多角的に考察しながら批判的に読み解き、それが沖縄にとって良いのか悪いのかという価値判断を行う判断力の育成にもつながり、自分の意見・感想を書いたりグループのメンバーに伝えたり、全体発表会を通して自分の考え、グループの考えを発信するなど表現力を育む効果があったと考える（表6）。

（2）課題解決学習を通しての生徒の変容

課題解決学習に入ると、どのグループも課題を見つけるのに何度も話し合いを重ね、進行に大きな差が出てきた。活発に意見交換しているが課題がまとまらないグループや話し合いが息詰まり課題を見出せないグループも見受けられた。そこで、各グループのリーダーに課題解決学習中間報告用紙を配布し、進捗状況を報告させた（写真7）。グループで決めた課題と課題解決に向けて何をどういう風に調べていくか、資料の収集と活用方法、グループ内の役割分担等、追究した過程が分かるような項目を設けまとめさせた。さらに現在グループ内で困っていることをあげさせると「情報収集に時間がかかり間に合うか不安」「課題解決についてグループ内で意見が分かれている」等の声が最も多く、「完成への見通しを持って仕事の分担や時間外活動等を行うこと」「解決策として必ずしもグループ内で意見を統一する必要はないこと」等、助言を書き込むと流れが良くなった。ところが、伝統文化を担当したグループがタイトル決めやレイアウトまでは順調だったが、記事のコメントの少なさを指摘されたり、課題設定の場面においてはグループでの話し合いが完全にストップしていた。伝統芸能の記事を選択した理由も「煌びやかな写真に惹かれただけ」「他のテーマは難しそうだったから」と関心の低さを表し、「沖縄の唄や三線、踊り等自分たちにはなじみがなく興味・関心が持てないため課題を見つけきれない」と悩みを打ち明けてきた。そこで、「なぜ興味が持てないんだろう」「今の若者たちに沖縄の伝統芸能について興味・関心をもってもらうにはどうしたらいいか」等、自分たちが抱えている問題点をそのまま課題にしてみてはどうかと指導した。その後は、自分たちとの関わりを中心に考え、「逆の立場になって考えてみよう」「記事にあるような県外海外への発信も大切だけど、もっと県内の若者にその良さをアピールすべきかも」等、意欲的に意見を交わしながら解決案を模索していた。

このように、机間指導の際には把握できなかった各グループが抱えている問題を、中間報告用紙に記入させることで、適時適切に細かい指導を行うことができ、互いにとって有効であった。

表6 「切り抜き新聞づくり」を通して育成する力と主な学習活動

思考力	○沖縄の現状を知り、学んだことを根拠に自分の考えをつくりあげる。 ○記事の内容で、不明な点や疑問点を調べ、まとめる。 ○読み手に最も伝えたいことは何か考え、グループで話し合いまとめる。 ○メッセージ性のあるタイトルを決める。 ○タイトルに即した、方向性のあるレイアウトに仕上げる。 ○テーマの現状、対策、課題等について調べ、グループの話し合いを深め、自分の考えを再構築する。 ○課題の解決策をグループでまとめる。
判断力	○沖縄の現状を知り、記事の内容を批判的に読み解き、それが良いのか悪いのかという価値判断を行う。 ○各グループの発表を聞き、課題とその解決策について妥当性があるかないかを自分なりに判断する。 ○各グループの発表について、相互評価を行う。
表現力	○沖縄の現状を知り、学んだことを根拠に自分の意見・感想を書いたりグループのメンバーに伝えたりする。 ○タイトルに即して、意味付けを持たせたレイアウトに仕上げる。 ○読み手に特に伝えたい内容について、矢印や下線等を使ってわかりやすく表現する。 ○切り抜き新聞の発表を通して自分の考え、グループの考え方を発信する。

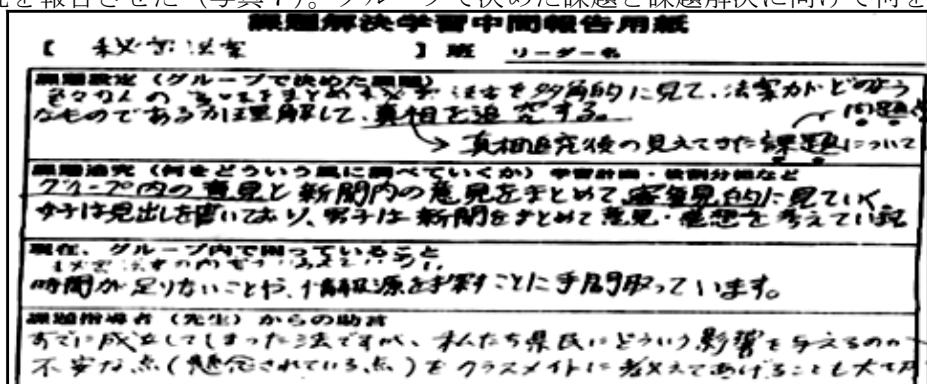


写真7 課題解決学習中間報告用紙

以上のことから、課題の設定を生徒自身と地域社会との関わりに重点を置き、課題解決に向けて記事以外の情報収集も行い、多面的・多角的に捉えることで、客観的に判断した解決策を考えることができたと考察する（表7）。グループでの議論を深め、主体的に課題を追究し、自分たちなりに考え出した解決策を発表していく中で、思考力・判断力・表現力を育むことができたと考察する。

(3) 地域学習についての効果

以前行った沖縄の歴史や文化、自然等、様々な分野についての確認テストでは平均点が43点と、検証前のアンケート共々、地元沖縄が大好きだが認識度は決して高いとは言えない傾向にあった（図3）。しかし、地域学習を題材とした『切り抜き新聞づくり』や課題解決学習を通して「様々な面から沖縄のことを深く知ることができて良かった」

「分からなかったことを知るという新鮮な喜びを体験した」「沖縄のたくさんの魅力を知り、誇りに思った」という新たな発見を喜ぶ生徒が全体の92%を占めていた。また、各グループがあげた課題又は解決策について自分たちなりに考えを深めた結果、20年後30年後の沖縄が「こうあってほしい」という具体的な展望を持つことができている（図4）。ワークシートの「学習のまとめ」において、「沖縄には長い時間をかけて、しっかりと解決しなければならない問題がたくさんある。しかし、それだけでなくこれから良い方向に伸ばしていくのもたくさんある事を知った」と述べているBさんのように、全体の83%の生徒が「私たち高校生に何ができるか。まずは知ること、無関心にならないことだと思う」とい

う地域社会の一員としての自覚が見受けられる感想を述べている。これは、沖縄について知識を深め、その魅力や現状、課題等を理解できたことにより自ら地域との関わりを自覚し、地域への愛着心から沖縄の未来への展望を持つことにつながったからだと考察する（表8）。

(4) アンケートの結果から

グループ学習・発表の過程で、91%の生徒が「友達と普段話さない内容なので自分とは違ういろいろな意見を聞くことができ、改めて深く考えさせられた」等、他者の意見を受け入れながら自分の考えを再構築できたと述べている。検証後のアンケートにおいても、「他者の意見を聞き考え方を深めることができるか」という質問に対し、クラス全員が「できる」「どちらかといえばできる」と回答している（図5）。

このことから、グループによる新聞づ

表7 設定された課題と解決策の主な例

課題設定	課題解決
○障害者を取り巻く現状や対策をふまえ更なる平等な社会になるための方法は？（医療福祉班）	○現在、社会進出に成功している障害者の方々の活躍ぶりをもっと社会にアピールする。障害者の声をもっと聞く。
○現代の若者になじみのない伝統芸能など沖縄の文化に興味をもってもらうにはどうしたらいいか（伝統文化班）	○人気のあるアニメ等をモチーフにした組踊を制作する等現代風にアレンジすることで若者にもわかりやすく伝える。
○学力問題や性の問題しまくとうば等自分たちの身近にある問題を取り上げ解決策を考える（教育班）	○過剰すぎる部活動のあり方や生きることの大切さ、しまくとうばを残すための具体策として小中高一貫教育の実施。

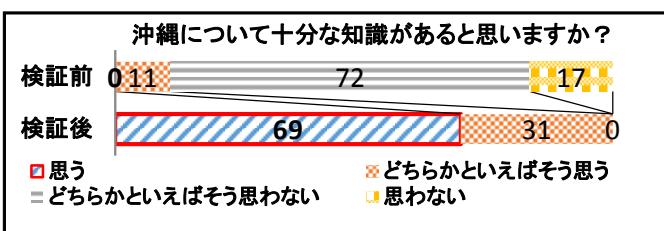


図3 地域学習における意識の変容①

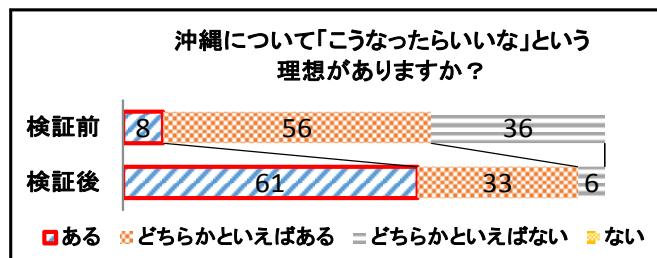


図4 地域学習における意識の変容②

表8 生徒による沖縄の未来への展望

○国内外の経済の拠点として積極的に意思表示も行っている。	○交通機関や観光地の発展により観光客がますます増大している。
○沖縄独自の伝統文化を活かした国際交流が盛ん。	○国際交流の拠点。そのための人材育成も充実している。
○基地問題のない平和で自然豊かな沖縄。	○観光面だけでなく地場産業を生かした産業立県として発展。

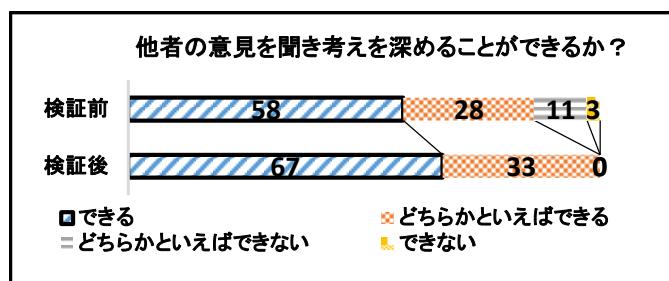


図5 思考力育成に関するアンケート②

くりを通して、地域社会の現状や課題を理解し、友達との意見交換を何度も行うことにより意欲的・協的に学び合い、自分の考えを深めることができたと考察する。さらに、どの解決策が望ましいのか、自分たちなりに模索した様子が伺える感想も81%あり、判断力を育むのにも効果があったと思われる。授業後の感想からは（表9）、「課題を見つけ解決策を考えていくのが難しかったけど、皆で真剣に考え、自分なりに意見を持つことができた」「新聞という身近なものから新たな発見、驚きを感じた」「新聞づくりは難しかったけど沖縄の現状、過去、未来まで考える良い機会となった」「自分とは違う考え方の人が多くいて深く考えさせられた」「グループで会話しながらコミュニケーションがとれた」「沖縄のこと、そこに住む自分のこと家族のことをいろいろ考えることができた」という生徒の興味・関心や自己評価を高める効果があったと考える。また、授業当初、消極的だったCさんは「卒業後は就職するのすぐに社会人になる。自分と地域社会とのつながりを特に意識したことはなかったけど、恥をかかないよう世の中の出来事にもっと関心を持とうと思った」とコメントしている。卒業を目前にした3年生として、自分自身の在り方生き方を意識した感想が多いのが特徴的であった。

表9 授業後の生徒の感想(抜粋)

○新聞という身近なものから新たな発見、驚きを感じた。 ○新聞づくりは難しかったけど、沖縄の現状、過去、未来まで考える良い機会になった。 ○グループで会話ながらコミュニケーションがとれた。 ○グループ皆で沖縄の現状を理解し、一人一人が意見を持ち、その意見や考えを相手に伝える事ができて良かった。 ○沖縄の課題は、県内だけでなく国内外とも関連していることに改めて気づいた。 ○自分とは違う考え方の人も多く、深く考えさせられた。ものの見方や考え方もし少し変わった。 ○沖縄の様々な現状を知ることができ、自信につながった。	○課題を見つけ解決策を考えていくのがとても難しかったけどグループ皆で真剣に考え、自分なりに意見を持つこともできたのでためになった。 ○沖縄のこと、そこに暮らす自分のこと、家族のことを真剣に考えることができた。 ○沖縄を背負っていく私たち若者が現状をよく知り、できることからはじめていきたい。 ○自分の考えを持ち、それを相手に伝えきれるかが、人生においてもとても大事なんだろうなと実感した。 ○日頃からいろんな事に关心を持ち自分の考えを持つクセをつけようと思った。
---	---

以上のことから、本研究を通して、地域社会の様々な事象について、新聞等を活用しながら身に付けた知識を単なる暗記で終わらせるのではなく、そこから疑問点や問題を見つけ、自ら課題を設定し追究する過程で、社会全体や自分自身とのつながりを明確にし、自分なりの考えをつくりあげる。そして、自分たちなりに考え出した解決策が良いのか悪いのか価値判断をしながら自分の考えを表現することにより、思考力・判断力・表現力を育むことができたと言える。

IV 成果と課題

1 成果

- (1) NIEにおける地域学習を取り入れることで、参加・体験型の主体的な学習が促され、新聞を介して他者と対話し、多面的・多角的に考察する言語活動の充実が図られることとなり、思考力・判断力・表現力を育むことができた。
- (2) 主題を設定することで、地域社会の現状や課題を「知る」だけでなく「分かる」ために「なぜ」「どうして」を追究し、自分たちなりに解決案を模索する過程において、地域社会の一員としての自覚と沖縄の未来像を展望させることができた。
- (3) 課題解決学習を取り入れることで、生徒自らが地域社会への問題意識を持って主体的に課題を設定し、新聞等資料の整理を適切に行い、課題解決に向けグループで話し合いながら多面的に考察することにより、思考力・判断力・表現力を育むことができた。

2 課題

- (1) 生徒が設定した課題や解決策、展望した地域社会について、日常生活に自分なりの結論をどう生かしていくか等、全体での考察や共有化を図り、「より良い地域社会」づくりに向けて行動する資質や能力の向上を目指す単元構想の工夫が必要である。
- (2) 相互評価シートの観点がスキル重視になっており、主題に沿った視点から評価設定をする必要がある。

〈参考文献〉

- 中日新聞社 2013 『第19回新聞切り抜き作品コンクール優秀作品集』
- 一般社団法人日本新聞協会 2013 『学習指導要領に沿って新聞活用の工夫提案－N I E ガイドブック高等学校編』
- 福井新聞社 2012 『教職員のためのN I E ガイドブック』
- 文部科学省 2012 『言語活動の充実に関する指導事例集』
～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～【高等学校版】 教育出版
- 文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説公民編』 教育出版
- 文部科学省 2009 『高等学校学習指導要領』 東山書房
- 小原友行 2009 『思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン（小学校編）』 明治図書出版
- 明治図書 2009 『社会科教育4月号』
- 妹尾彰・枝元一三 2008 『子どもが輝くN I E の授業－新聞活用が育む人づくり教育』 晩成書房
- 鈴木伸男 2006 『こうしてできたN I E 新聞でわくわく授業』 白順社